

16人が
質問しました。

6月定例会

6月定例会

■ 一括質問
■ 一問一答

1	梅田 利和 議員	● 校内の安全性確保のための取り組み	6 ページ	2	片山 瞬次郎 議員	● 未来をつくる若者たちへの支援とふるさと小松について ● コロナ禍を踏まえての防災・減災対策について ● 在宅介護の現場でのコロナ対策について ● GIGAスクール構想の前倒し及び、小中学校の再開について	6 ページ
3	二木 攻 議員	● 水郷・木場潟環境について	7 ページ	4	川崎 順次 議員	● 感染症と自然災害が重なった時の避難所の対応 ● もっと予算を投入すべき ● 全国スポーツ大会の中止について	7 ページ
5	吉田 寛治 議員	● SDGsの小松市の取り組みについて	8 ページ	6	宮川 吉男 議員	● 新型コロナウイルス感染症対応・対策について ● 木場潟でのSDGs推進	8 ページ
7	南藤 陽一 議員	● マイナンバーカードの普及について ● キャッシュレス社会の実現に向けて ● 小松市持続化給付金について	9 ページ	8	吉本 慎太郎 議員	● 「小松」GO TO「小松」!	9 ページ
9	木下 裕介 議員	● 市民サービスをより便利に ● 新型コロナ以外の感染症対策は ● 読み易く分かり易い公文書を ● ブックスタートについて ● 新しい生活様式における図書館 ● ごみダイエツ袋をレジ袋に	10 ページ	10	岡山 晃宏 議員	● GIGAスクール構想の早期実現に向けて ● 市税の徴収猶予と軽減措置について	10 ページ
11	橋本 米子 議員	● 学校再開にあたって児童・生徒への学習支援について ● 災害に強いまちづくりについて ● 小松市の特定健康診査及び長寿健康診査について ● 市営木曽町住宅跡地の活用策	11 ページ	12	東 浩一 議員	● 小松市の災害時ウイルス感染症対策の取り組みについて ● 有害鳥獣対策について ● 小松の農林水産業への取り組みについて	11 ページ
13	竹田 良平 議員	● 小松市民病院への支援について ● 明峰駅の利便性向上について ● 飲食業等賃料補助金について	12 ページ	14	円地 仁志 議員	● コンターの見直しについて	12 ページ
15	吉村 範明 議員	● 人口の現状について ● ビジョンに基づいた施策について ● 校下別人口の現状とそれを踏まえた次の展開について	13 ページ	16	宮西 健吉 議員	● 市の新生児特別給付金について ● 予防接種について	13 ページ



梅田 利和(うめだとしかず)議員

一括質問

コロナ禍対応 学校再開

◆校内の安全性確保のための取り組み

Q 新型コロナウイルス感染防止対策と授業の両立について。

A 児童生徒の健康チェックや手洗いの徹底、ドア・手すり・共有教材の消毒等、基本的なことは全て徹底し実施している。教員は緊急時においても子供たちの学びを止めないという意識を持って意欲的に学べるよう授業の進め方を日々研究している。市教委では、会議のオンライン化等で、教員が学校で指導に必要なことについて対応できるよう配慮している。

Q 臨時休校中の家庭学習の評価について。

A 基礎基本の課題や、生活リズムを整えるために学習内容を組み込んだ時間割を作成し配布。教員が中学生向けの授業動画を作成し、希望する生徒にはDVDを配布した。教員により定期的に学習の進捗を確認し、丁寧の評価して、児童生徒の学習への意欲の継続につながったと考えている。

Q 心のケアや虐待防止対策について。

A 様々な不安を抱く児童生徒に対してスクールカウンセラー等の専門家の面談体制も整えている。虐待等の配慮が必要な児童生徒は休校中、教員が家庭訪問や電話連絡を行い、心身の状況把握を行い、専門機関との連携を図ってきた。

Q 体育、運動部活動について。

A 体育は感染リスクの高い学習の一つに挙げられる。実施については十分な準備運動、共有の用具・器具の使用前後の適切な消毒と手洗い等を行い、子供たちの安全確保のために、これらを遵守していきたい。また、3密を防ぐ体育授業の支援として、動画を作成し各学校へ配布する。運動部の活動は原則、水・土曜日を休養日とし、活動時間は短縮し、徐々に増やしていく。

Q 運動会等の学校行事について。

A 行事に関して、国・県のガイドラインでは、安全を第一に延期や規模縮小を提案している。市として児童生徒にとって思い出に残る行事となるよう検討を重ねている。



片山 瞬次郎(かたやましゅんじろう)議員

一括質問

高校・大学生等の学習エール制度の対象が拡充

◆未来をつくる若者たちへの支援とふるさと小松について

Q 未来をつくる若者たちへ支援と学習エール応援金の所感。

A ふるさとを離れ学ぶ学生に外から本市を見直してもらいコミュニケーションを取ってほしい。学習エール応援金は全体の約8割がオンライン申請をし、新しい行政の在り方を痛感した。

◆コロナ禍を踏まえての防災・減災対策について

Q 分散避難の考え方と避難訓練は。

A 避難所以外に避難する分散避難は、日頃から家族で話し合い取り入れて欲しい。今後の避難訓練は、感染症対策を当然考慮していく。

Q 避難所での避難者健康管理と感染予防のための衛生環境整備は。

A 受付で、隔離避難が必要な人とエリアを分ける。空間除菌効果のあるオゾン空気清浄機等を整備し、今後も随時追加していく。

◆在宅介護の現場でのコロナ対策について

Q 訪問やデイサービス(通所介護)等、在宅介護支援の方向性は。

A 布製マスクの配布、施設整備に対する助成や高齢者の健康づくりの支援に取り組む。

◆GIGAスクール構想の前倒し及び、小中学校の再開について

Q 前倒しは順調に行えるか。

A 令和2年中の整備に努める。

Q オンラインを通じてのICT活用の考えは。

A 現在は今回の臨時休校のような緊急時での活用を想定している。

Q コロナ感染症対策で3〜5月の学校休校による授業の遅れは。

A 夏休み、冬休みを短縮し授業時数に充てることで、8月まで遅れを取り戻せると考える。

Q 学校内行事への対応について。

A 最善のよりよい行事にするため学校全体で考えていきたい。小学校における体育専科に対する考えは。

A 体を動かす楽しさや、関心を高めることが大事な目標となっており、子供をよく知る学級担任が最適と考えている。



二木 攻(ふたぎ おさむ)議員

一括質問

水郷・木場潟環境について

Q 木場潟は周辺を公園として整備され、今年年間70万人の人々に潤いを与えております。水辺空間は私たちの心に安らぎを与えてくれる大切なものです。7月には水郷アクションプランを、9月には木場潟宣言を作成することですが、それぞれの狙いと内容は。

A 水郷アクションプランは、日常生活に必要な不可欠な水に感謝し、水とともに生きる環境を次世代に引き継ぐことを目的としている。内容は「豊かな自然や豊富な水を守る」、「潤いのある水辺空間を創る」等の4つのテーマにSDGsの考え方を基にした指標を加えSDGs未来都市としてふさわしいプランとしたい。7月に開催を予定しているこまつ水郷2020ネット総会において公表する予定である。木場潟宣言は小松市内外の人々に木場潟の現状を知ってもらい未来の木場潟の姿を共有し、木場潟を愛する人を増やし、木場潟100万人構想を実現することを目的としている。内容はカラスガイ等の水生生物やオニビン等の植物の復活状況、水質指標である化学的酸素要求量の改善状況を市民や専門家とともに検証することを考えて

いる。

Q 5月に流し舟を入手し、木場潟、前川で活用されるのとこのところであるが、その活用方法は。

A 加賀市の大聖寺川で運航されていたものをNPO法人歴町センター大聖寺より寄附を受けたものである。まずはきれいに改修し、屋根にソーラーシートを設置、太陽光発電を行うことで地球温暖化防止にも配慮した環境にやさしいものとする予定である。当面は南園地周辺で運航することとし、水郷アクションプランや木場潟宣言を踏まえ、環境学習やイベント、観光等での活用を考えている。



春の木場潟



川崎 順次(かわさき じゅんじ)議員

一括質問

見せかけのコロナ対策に ならないように！

◆感染症と自然災害が重なった時の避難所の対応

Q 衛生用備品の整備は市指定避難所に限っているのはなぜか。市民の安全安心を守る大切な予算、税金をなぜ差別化するのか。今後は第2波に備えた対策と経済支援が大切だ。

A 小松市地域防災計画に基づき、学校・地区体育館等、約70カ所を指定避難所としている。今回オゾン空気清浄機等を整備し感染症予防に努めたい。公民館等は各町内、自主防災組織が認定した一時避難所で、その防災対策、備品の整備は、はつらつ環境助成金を活用してもらいたい。

◆もっと予算を投入すべき

Q 第2波に備え様々な制限をなくし、給食費を9月まで無償化、上水道の基本料金を4カ月免除や、一人一万円のクーポン券を発行してはどうか。

A 国・県が行っている様々な制度の小さな隙間を個別に全部対応できるよう順番に行ってきた。個々の店舗が持続し、賑わうよう、

出来るだけのことをしたい。

Q 部長に予算権限を与え、すべての責任は私が取るというくらい気持ちが必要ではないか。

A 予算編成は各部、課よりの提案があり優先順位を決めてやってくる。それぞれに権限を持って責任と実行で進めている。

◆全国スポーツ大会の中止について

Q インターハイや北信越大会の中止等、練習の成果を発揮することなくシーズンを終了し、かわいそうでならない。本市としてどのような規模での大会と何種目お考えか。

A 最高学年の児童生徒を中心として、市内の学校または競技種目によっては南加賀エリアまで範囲を拡大したい。種目は、約30の競技団体において大会・イベントの開催が検討されている。

Q 入場人数の制限が必要となるが、プロ、アマ大会の試合の施設利用料金は。

A 今回の支援事業の中でプロアマを問わず、本市でスポーツ大会の開催が可能となれば100%助成を行いたい。



吉田 寛治(よしだ かんじ)議員

一括質問

SDGsの

小松市の取り組みについて

Q 小松市のホームページを見ると、SDGsについての未来都市計画等が詳しく書かれている。

しかし、市民や一般企業は、小松市がどのように取り組んでいるか、これからどのように取り組んでいくか、SDGsについても、関心が薄いかということも知らない方が多い実情があるのではないかと。私はほれだけ本気で、市が、あるいは市長が、環境問題に取り組むということが、未来を作っている。

小松市が9年後に日本一のまちとなろうとしているのであるならば、市長そして、市民がワンチームとなって、本気で取り組みなければならない。

市長は、市民に知らせ、一緒に行動を起こすためにどのような取り組みをお考えか。

A 今回のこのコロナ関連で、環境の大事さ、社会とのつながりの大事さを実感した。各一人一人が地域を守り、子供たちや、シニアの皆さんが健康になるよう進めていくことがSDGsである。

今年の11月には、第2回目のSD

GS未来都市エコロジー推進大会を開催予定である。SDGsアクションプランもまとめている。

市内ではすでにESG (Environment: 環境, Social: 社会, Governance: ガバナンス)に取り組む事業所もあり、これはSDGsと同列であると考えられる。また、いろんな企業がSDGs宣言をしている。これを業界全体で行っていくことが、重要である。

小松市は昨年、SDGs未来都市に選ばれた。多くの大学、企業、世界的に活躍しているいろんな研究機関から提案や支援がある。知恵と後押しにより、日本一にしていくなを、ぜひ皆さんと共有したい。



宮川 吉男(みやかわ よしお)議員

一括質問

授業遅れのカバーと

児童生徒先生の負担への配慮を

◆新型コロナウイルス感染症対応・対策について

Q 小中学校再開について夏休みの授業で、4・5月分の遅れをカバーできるのか。児童生徒、先生に負担増にならないか。

A 夏季・冬季休業中、水曜日の5、6限授業等を活用し、カバーする。教員の負担は、研修等の中止延期、オンラインによる短縮等に対応。児童生徒は、状況に応じ負担にならないように配慮する。

Q 運動・文化クラブの大会が殆ど中止になっている中、今後練習の成果を発揮する大会の構築と支援は。特に中学3年生に対しては。

A 2020 KOMATSU SPORTS CHAMPION大会運営費等の支援により、中体連と小松市スポーツ協会が協力、代替大会を計画。文化部も学校等で発表の機会を設ける。

Q 第2波の襲来等で、生徒、先生から感染症が出た時の指針は。国、県のガイドラインに沿い、専門家の意見を参考に、迅速適切に対応していく。

Q 感染、熱中症予防における夏場でのマスク着用対応は。

A 小中学校は空調設備での温度管理、換気や水分補給等で予防。

Q 放課後児童クラブは濃密状況での運営であります。現状把握や感染防止対策への支援は。また感染症発生時の対応策は。

A 環境整備や空気清浄機の設置、手洗いの場の自動水栓化等、保健師等が全クラブを巡回し、指導。

Q 避難所の感染予防対策について、市民が安心して避難できる為に3密対策は万全か。

A 利用機会が多い避難所は、動線の指定やエリア分けは完了。その他の避難所の作業を進める。

◆木場潟でのSDGs推進

Q 舟運トリアル事業の概要と事業主体は。

A 流し舟は、南園地周辺において運航。観光、環境学習やイベント等で活用。事業主体は、公益財団法人木場潟公園協会を想定。

Q 水郷木場潟来訪者100万人へ期待する。

A 湖面利用と里山再生による魅力アップにより、利用客増を図る。